

青木湖周辺の遺跡 1. 後山遺跡、2. 大行原遺跡 3. 加減遺跡、4. 藪澤 I 遺跡、  
 5. 藪澤 II 遺跡、6. 藪澤 III 遺跡、7 白浜遺跡、8. クマンバ遺跡、9. 上城跡、  
 10. 青木湖西北遺跡、11. エビスマ原遺跡、12. 青木遺跡、13. 築場 I 遺跡、  
 14. 築場 II 遺跡、15. 神谷遺跡



後山遺跡全景（北側上空より）



大行原遺跡全景（南側上空より）



大行原遺跡全景（上空より。上が北）





調査区北側（上空より。上が北）



調査区南側全景（上空より。左が北）



尾根南斜面東側の遺構（南より）



尾根北斜面の調査状況（東より）



全景（西側上空より）



全景南（側上空より）



藪沢I遺跡B地区全景（上空より。上が北）



調査区北東部分全景（上空より。上が北）



調査区東側中央全景（上空より。上が北）





調査区北西部分全景（上空より。上が北）



調査区西側中央全景（上空より。上が北）



集石 1・10～14 (西より) (縄文時代前期後半)



集石 4～8・21・土器集中 5 (南西より) (縄文時代前期後半)

縄文時代  
前期後半



大型球状耳筋出土状況



土器集中1で発見された一括（単独出土）土器1



集石31・38・39、一括土器（単独出土土器）2



全景（南側上空より）



斜面裾の集石・焼土群（東より）



全景（北側上空より）手前からF地区、E地区、D地区とした。



F地区縄文時代晩期末焼土、遺物検出状況（西より）



# 藪沢Ⅲ遺跡

巻頭図版 14



全景（北側上空より）



全景（南側上空より）



A地区中世河川跡（上空より）埋没木が多く検出された。



B地区縄文時代早期前半磯群および土層堆積状況（西より）

あお き こ  
青 木 湖

国道148号青木湖バイパス工事用地内遺跡調査報告

しろやまのいしづき ちやまのうらまのいしづき かくれのいしづき せせせせのいしづき せせせせのいしづき せせせせのいしづき  
後山遺跡・大行原遺跡・加蔵遺跡・藪沢Ⅰ遺跡・藪沢Ⅱ遺跡・藪沢Ⅲ遺跡

—— 縄文時代早・前期を中心とした遺跡群 ——

1998

大町市教育委員会

## 序

大町市内には、県指定史跡の上原遺跡に代表されるように多くの遺跡が確認されています。その中でも、このたび発掘調査が行われた青木湖周辺の地域一帯は、遺跡の密集地帯であると言えます。

近年、急速な発展により、地域の様相が変化してきています。このような開発の中、特に埋蔵文化財に関しては消滅の恐れがあり、それらを後世に伝え、生涯学習の教材の一部として活用していくために、その保護対策につきまして、現状保存や今回のような記録での保存という形を取るべく、日々努力しております。

このたびの発掘調査は、国道148号の青木湖バイパス建設工事に伴うもので、大町建設事務所への委託により、平成4年度から平成9年度まで6年間、後山遺跡・大行原遺跡・加蔵遺跡・藪沢Ⅰ遺跡・藪沢Ⅱ遺跡・藪沢Ⅲ遺跡の6遺跡の調査をおこないました。この発掘調査では、大行原遺跡・藪沢Ⅰ遺跡で約6,000年前～5,000年前の縄文時代の集落跡が発見され、また藪沢Ⅰ遺跡では国内で最も大きいと思われる石製の耳飾りが発見されたり、その他に多数の貴重な土器・石器が発見され、大町市の歴史に新たな1ページを加える重要な遺跡であることがわかりました。

このような先人達の残した貴重な財産である文化財を有効的に活用することにより、祖先がその時代に活々と生活していたことに思いを馳せ、大町市が古きものと新しきもの調和のとれた住み良い、誇り得るまちになってくれることを期待しています。

最後になりましたが、この調査にあたりご理解ご協力を賜りました大町建設事務所、その他関係機関ならびに関係者の皆様方、また献身的に発掘調査にご協力いただきました発掘作業参加者の方々々に衷心より感謝の意を表し、発刊のあいさつといたします。

平成10年3月

大町市教育委員会

教育長 荒井和比古

# 例 言

1. 本書は、平成4～9年度に大町建設事務所長と大町市教育委員会教育長との契約に基づいて行われた。大町市大字平加蔵地籍（青木湖東岸東側）における道路改良事業国道148号青木湖バイパス工事に伴う後山遺跡・大行原遺跡・加蔵遺跡・藪沢Ⅰ遺跡・藪沢Ⅱ遺跡・藪沢Ⅲ遺跡緊急発掘調査の報告書（概要）である。
2. 本調査は、大町建設事務所・長野県教育委員会・大町市教育委員会の三者による保護協議に基づき、大町市教育委員会が大町建設事務所の委託を受け実施した。
3. 調査については大町市教育委員会生涯学習課（社会教育課）文化財係で発掘調査・整理作業を実施した。本書の編集は島田哲男が行った。
4. 調査の諸記録及び出土遺物は、大町市教育委員会が保管している。  
遺跡の注記については、後山遺跡「AUR」、大行原遺跡「AOI」、加蔵遺跡「KK」、藪沢Ⅰ遺跡「YSⅠ」、藪沢Ⅱ遺跡「YSⅡ」、藪沢Ⅲ遺跡「YSⅢ」と略して注記した。
5. 調査に際しては、多くの各関係機関、研究者、先生方から御教示、御協力をいただきました。多数おられるために御高名は記しませんが、ここに謝意を表したいと思います。



# 目 次

## 巻頭図版 1～15 (カラー図版)

巻頭図版 1	青木湖周辺の遺跡
巻頭図版 2	後山・大行原遺跡
巻頭図版 3～5	大行原遺跡
巻頭図版 6	藪沢Ⅰ遺跡
巻頭図版 7～11	藪沢Ⅰ遺跡B地区
巻頭図版 12	藪沢Ⅰ遺跡C-I地区
巻頭図版 13	藪沢Ⅱ遺跡
巻頭図版 14・15	藪沢Ⅲ遺跡

## 序

## 例 言

## 目 次

1. 調査経過概要 .....	1
2. 調査体制 .....	2
3. 調査の方法	
図1 青木湖周辺の遺跡 (バイパス建設前 1:20,000) .....	3
図2 青木湖周辺の遺跡 (バイパス建設後 1:20,000) .....	4
図3 後山遺跡、大行原遺跡周辺地形図 (1:5,000) バイパス建設前 .....	5
図4 後山遺跡、大行原遺跡周辺位置図 (1:5,000) バイパス建設後 .....	6
図5 加蔵遺跡周辺地形図 (1:5,000) バイパス建設前 .....	7
図6 加蔵遺跡周辺地形図 (1:5,000) バイパス建設後 .....	7
図7 藪沢Ⅰ遺跡・藪沢Ⅱ遺跡・藪沢Ⅲ遺跡周辺地形図 (1:5,000) バイパス建設前 .....	8
図8 藪沢Ⅰ遺跡・藪沢Ⅱ遺跡・藪沢Ⅲ遺跡周辺地形図 (1:5,000) バイパス建設後 .....	9

写真 1~91

- 写真 1~7 後山遺跡
- 写真 8~11 大行原遺跡 (全景)
- 写真 12~22 大行原遺跡 住居跡
- 写真 23 大行原遺跡 (建物跡 1・土坑)
- 写真 24~28 大行原遺跡 (縄文時代前期の土坑・集石・焼土)
- 写真 29 大行原遺跡 (縄文時代晩期末土坑・溝 1)
- 写真 30~33 加蔵遺跡
- 写真 34~35 蕨沢 I 遺跡
- 写真 36 蕨沢 I 遺跡 A 地区
- 写真 37~39 蕨沢 I 遺跡 B 地区
- 写真 40~44 蕨沢 I 遺跡 B 地区縄文時代前期後半
- 写真 45~54 蕨沢 I 遺跡 B 地区縄文時代前期後半
- 写真 55 蕨沢 I 遺跡 B 地区 (縄文時代前期後半・縄文時代前期初頭~前半)
- 写真 56~63 蕨沢 I 遺跡 B 地区縄文時代前期初頭~前半
- 写真 64 蕨沢 I 遺跡 B 地区  
(縄文時代前期初頭~前半・縄文時代早期前半末集石 41・溝 1)
- 写真 65~67 蕨沢 I 遺跡 C-2 地区
- 写真 68~75 蕨沢 I 遺跡 C-1 地区
- 写真 76~78 蕨沢 II 遺跡
- 写真 79 蕨沢 II 遺跡 E 地区
- 写真 80 蕨沢 II 遺跡 F 地区
- 写真 81 蕨沢 III 遺跡
- 写真 82 蕨沢 III 遺跡 A 地区
- 写真 83~88 蕨沢 III 遺跡 B 地区
- 写真 89~91 蕨沢 III 遺跡 A 地区

## 1. 調査の経過概要

当発掘調査は、国庫補助道路改良事業国道148号青木湖バイパス工事に先立つ埋蔵文化財（遺跡）記録保存のためのものである。

この道路改良・工事計画については、平成2年度に計画が持ち上がり、計画用地内に後山遺跡・大行原遺跡・加蔵遺跡・蕨沢Ⅰ遺跡・蕨沢Ⅱ遺跡・蕨沢Ⅲ遺跡の6つの遺跡があることがわかり、平成2年度から大町建設事務所・県教育委員会・市教育委員会の三者で協議を重ね、平成4～7年度は現地での発掘調査を中心に、平成8・9年度は室内での整理作業を中心に6年計画で進めることとなり、平成4年度より発掘調査を開始した。平成4年度は後山遺跡・大行原遺跡の試掘調査、平成5年度は後山遺跡・大行原遺跡の発掘調査、平成6年度は蕨沢Ⅰ・Ⅱ遺跡の発掘調査、加蔵遺跡一部の試掘調査、平成7年度において現地作業を終了する予定であったが、蕨沢Ⅲ遺跡の調査に入れなかったことから蕨沢Ⅲ遺跡の現地発掘調査は、平成8年に行い、現地での発掘調査は終了し、平成9年度は整地作業を実施した。

委託着手及び完了期日、現地での発掘調査期間、面積は次の通りである。（現地発掘調査以外は、準備及び整理作業を期間）

平成4年度 後山遺跡・大行原遺跡試掘調査

委託着手及び完了時期：平成4年10月1日～平成5年3月10日

現地試掘調査期間：平成4年10月14日～12月8日 調査面積：2,000㎡

平成5年 後山遺跡・大行原遺跡発掘調査

委託着手及び完了時期：平成5年5月6日～平成6年3月10日

現地発掘調査期間：平成5年5月24日～9月9日 調査面積：6,300㎡

平成6年 蕨沢Ⅰ遺跡・蕨沢Ⅱ遺跡発掘調査、加蔵遺跡C地区試掘調査

委託着手及び完了時期：平成6年6月6日～平成7年3月10日

現地発掘調査期間：平成6年6月20日～11月30日 調査面積：5,200㎡

平成7年 加蔵遺跡発掘調査

委託着手及び完了時期：平成7年5月1日～平成8年3月10日

現地発掘調査期間：平成7年7月10日～11月30日 調査面積：1,200㎡

平成8年 蕨沢Ⅲ遺跡発掘調査

委託着手及び完了時期：平成8年5月20日～平成9年3月10日

現地発掘調査期間：平成8年6月20日～11月29日 調査面積：2,000㎡

平成9年 出土遺物整理調査

委託着手及び完了時期：平成9年4月21日～平成10年3月10日

## 2. 調査体制

調査は、大町市教育委員会が行い、調査組織と事務局は同一のものとした。これ以外に、調査においての技術・学術面を指導する組織として、市教育委員会が委嘱した近隣市町村に住む学識経験者を指導員としている。発掘調査作業員（平成4～8年）、整理作業員については、教育委員会直接雇用したもの（社）大町・池田広域シルバー人材センターに委託して派遣されたものの両者で構成した。

大町市教育委員会（文化財担当・調査組織。平成4～9年度）

矢口格（教育長）平成5年3月31日まで／牛越充（同）平成8年9月30日まで／荒井和比古（同）平成8年10月1日から／千葉彬司（教育次長）平成7年4月1日から平成8年3月31日まで／石原学（同）平成

8年4月1日から／西沢義男（社会教育課課長）平成5年3月31日まで／太田実（生涯学習課課長）平成7年3月31日まで／太田勝巳（同）平成7年4月1日から／五十嵐群治（社会教育課文化財係長）平成6年3月31日まで／松田雄介（生涯学習課文化財係長）平成7年3月31日まで／綿内邦彦（同）平成9年3月31日まで／佐藤恒忠（同）平成9年4月1日から／島田哲男（同・主任）〈発掘担当者〉／白沢（清水）隆寿（同・主事）／清水（坂田）真理子（同・同）／三原信治（同・同）平成7年3月31日まで／荒井和比古（同・囃託）平成8年9月30日まで／相沢亮平（同・同）平成8年10月1日から／横沢和子（同・臨時職員）／金原隆子（同・同）平成8年4月30日まで／小林優子（同・同）平成8年月1日から／高橋克恵（同・同）平成9年7月1日から

### 大町市埋蔵文化財指導員

篠崎健一郎／樋口昇一／森義直／笹本正治／幅具義／福沢幸一／臼井潤

## 3. 調査の方法

調査遺跡のほとんどは山林・原野が多かったため遺構・遺物検出面等の把握ができていなかったために、試掘調査はグリット法・トレンチ法でおこなった。グリットについては手掘りで、トレンチについては、重機（バックホー）でトレンチを掘ってから手掘りで検出をおこなった。発掘作業は、遺跡での遺構・遺物検出面等の把握ができていないため、まず調査対象地区内に調査担当職員立会いのもと重機（バックホー）でトレンチを掘り（バックホーで掘削し、クローラダンプで土を集積）、遺構・遺物検出面を確認後、全面発掘調査にはいった。全面発掘調査は、表土を重機で除去し（トレンチ掘削と同様にバックホーで掘削し、クローラダンプで土を集積）、その後人力で遺構・遺物を検出、掘り下げをおこなった。

測量については、平板測量と簡易遣り方測量の両者を併用しておこない、包囲は座標を使用した。一部の図については、用地杭・任意に打った杭を使用して測量し、座標・標高を後で求めて、他の図と照合できるようにした。座標標高は、佛山光測舎に委託して設置した。また、大行原遺跡・藪沢Ⅲ遺跡では併写真測図研究所、藪沢Ⅰ遺跡では併こうそくにて委託してラジコンヘリコプターによる写真測量を併用した。

記録写真については、35mmカメラを使用し、レンズについては28mm広角・35mm広角・50mm標準・28～70mmズームレンズをそれぞれの場面にに応じて使用した。フィルムについてはISO100および400のカラーネガ・カラーリバーサル・白黒ネガを使用した。また、全体写真の一部は、後山遺跡・大行原遺跡・藪沢Ⅲ遺跡では併写真測図研究所、加蔵遺跡C地区・藪沢Ⅰ遺跡・藪沢Ⅱ遺跡では併こうそく、加蔵遺跡A地区では併ジャステックに委託してラジコンヘリコプターによる航空写真を撮影した。地形航空写真については、併こうそくで1990年に撮影したものを使用している。

整理作業は、各遺跡調査後、遺物の区分け・遺物洗浄をおこないその後、注記・復元・遺物実測・遺構図トレース等をおこなった。遺物実測の一部は併写真測図研究所に委託した。

遺物の略称については後山遺跡を青木湖後山遺跡を略し「AUR」、大行原遺跡を青木湖大行原遺跡を略し「AOI」（大行原は当初「おおいはら」としたが、地元において「おおぎょうばら」と呼んでいることから後に「おおぎょうばら」とした）、加蔵遺跡を略し「KK」その後にはA～Cの地区名をいれた。藪沢Ⅰ遺跡は「YSⅠ」、藪沢Ⅱ遺跡は「YSⅡ」、藪沢Ⅲ遺跡は「YSⅢ」と略して、それぞれ出土遺物等に注記した。

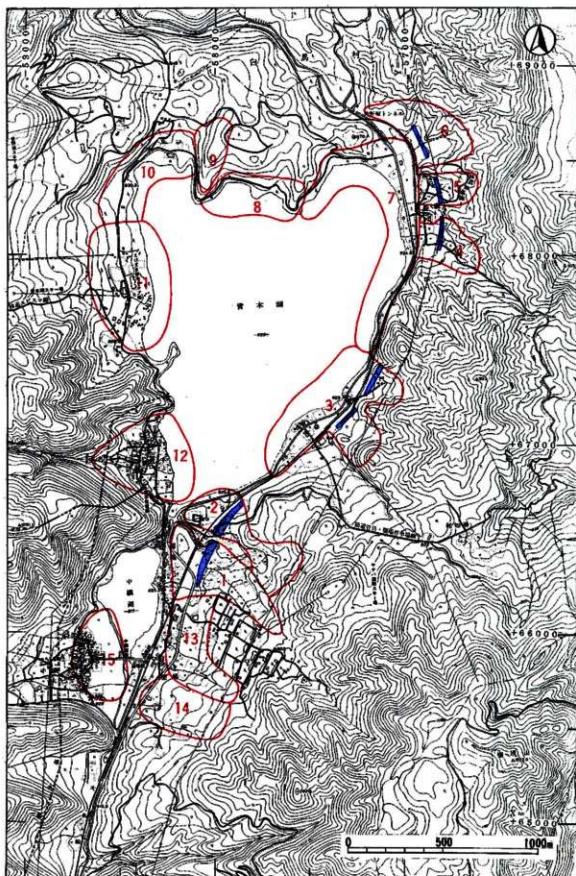


図1 青木湖周辺の遺跡 1. 後山遺跡、2. 大行原遺跡、3. 加蔵遺跡、4. 藪沢Ⅰ遺跡、  
 5. 藪沢Ⅱ遺跡、6. 藪沢Ⅲ遺跡、7. 白浜遺跡、8. クマンバ遺跡、9. 上城跡、  
 10. 青木湖西北遺跡、11. エビスマ原遺跡、12. 青木遺跡、13. 築場Ⅰ遺跡、  
 14. 築場Ⅱ遺跡、15. 神谷遺跡  
 (青部分発掘調査位置) (地図はバイパス建設前 1:20,000)



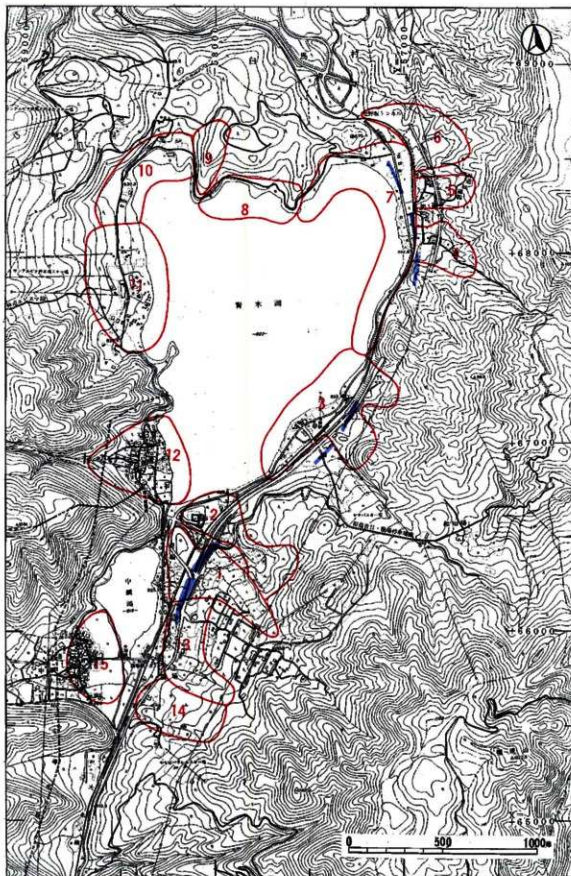


図1 青木湖周辺の遺跡 1. 後山遺跡、2. 大行原遺跡、3. 加減遺跡、4. 藪沢Ⅰ遺跡、  
 5. 藪沢Ⅱ遺跡、6. 藪沢Ⅲ遺跡、7. 白浜遺跡、8. クマンバ遺跡、9. 上城跡、  
 10. 青木湖西北遺跡、11. エビスマ原遺跡、12. 青木遺跡、13. 築場Ⅰ遺跡、  
 14. 築場Ⅱ遺跡、15. 神谷遺跡  
 (青部分発掘調査位置) (地図はバイパス建設後 1 : 20,000)

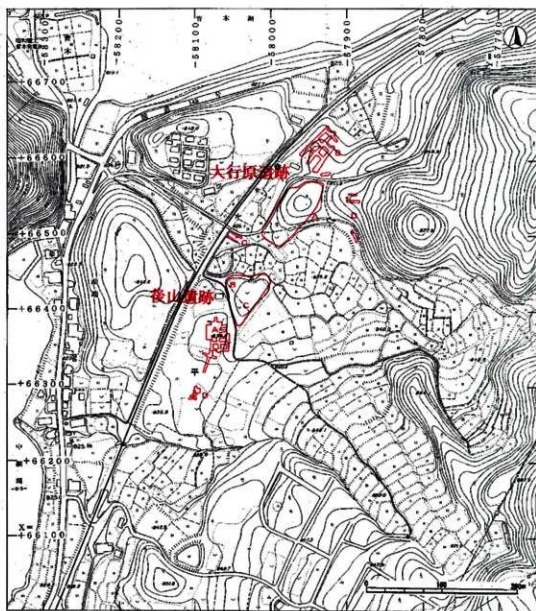


図3 後山遺跡、大行原遺跡周辺地形図 (1:5,000) (昭和47年作成地図) バイパス建設前

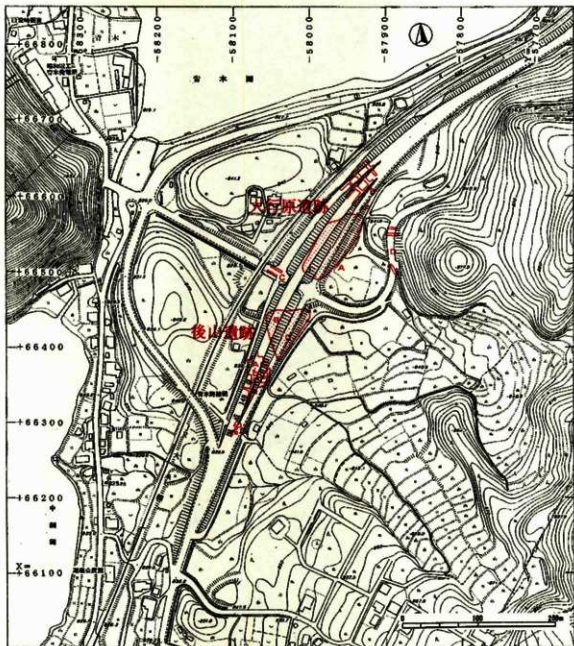


図3 後山遺跡、大行原遺跡周辺地形図 (1:5,000) (平成9年) バイパス建設後

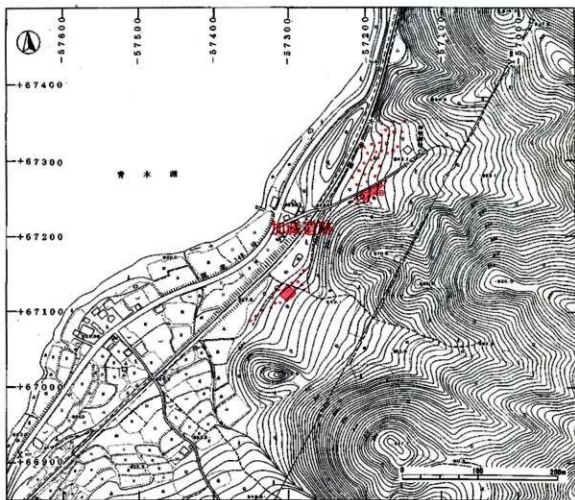


図5 加蔵遺跡周辺  
 地形図  
 (1:5,000)  
 (昭和47年作成)  
 バイパス建設前

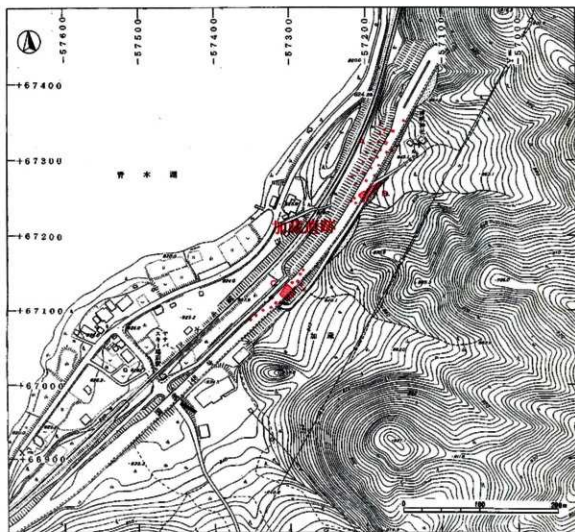


図6 加蔵遺跡周辺  
 地形図  
 (1:5,000)  
 (平成9年)  
 バイパス建設後



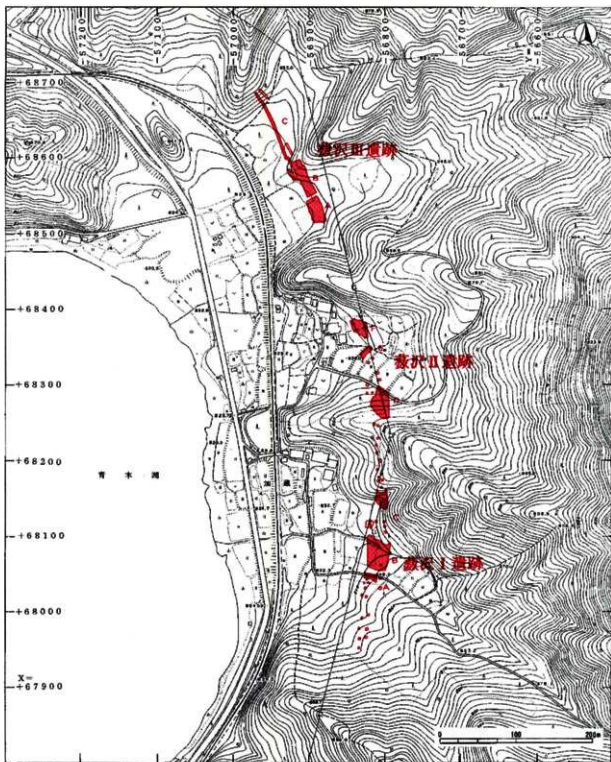


図7 葦沢Ⅰ遺跡・葦沢Ⅱ遺跡・葦沢Ⅲ遺跡周辺地形図 (1 : 5,000)  
 (昭和47年作成地図) バイパス建設前

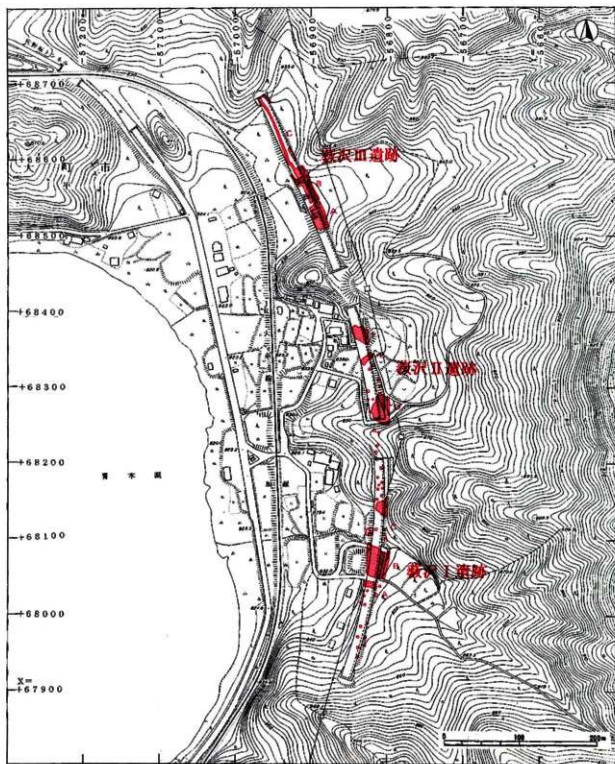


図8 数沢Ⅰ遺跡・数沢Ⅱ遺跡・数沢Ⅲ遺跡周辺地形図(1:5,000)  
(平成9年)バイパス建設後

1. 後山遺跡 1  
大行原遺跡 2  
航空写真



2. 後山遺跡  
全景（北側上空  
より）  
A・B・C・Dは  
調査地区名





1. 遠景（北東より）



2. 3 D区ガニ水路  
2. (西より)  
3. (北より)

石を列状に並べた地下水路で、長く続くもの2列、短いもの2列が発見された。時代はわからないが、近世のものと考えられる。





1. A区全景

(北西より)

A区の東側では河川跡が発見され、その西側に、小さな規模の遺物集中地点が見られた。



2. A区、土坑7および遺物集中地点

1は土坑7、2は遺物集中地点2、3は遺物集中地点3。遺物集中地点2では焼土も発見された。



3・4. A区土坑

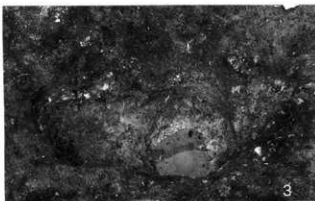
3. 土坑7

(東より)

4. 土坑1・3

(東より)

土坑7は縄文時代早期前半終り頃のもの。土坑1・3の時代は不明





1. A区東側河川跡1  
(東より)



2. B区(1992年調査)  
全景(西より)

BCについては同一地点の調査区であるが、調査の都合で、西側をB区、東側をC区とした。



3. B、C区(1993年調査)全景(東南より)

1. 日区南側の溝跡2・3 (西より)

二本の小さい溝が河川跡と考えられる大きな溝とつながって発見された。溝の上部および内部からは、縄文時代早期後半の遺物が集中して発見された。



2. 溝跡2・3 (西より)

溝跡は人工なものか自然なものかははっきりとできなかった。

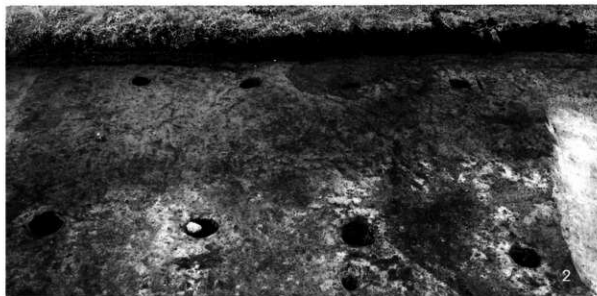


3. 溝跡2・3周辺の遺物出土状況 (西より)





1. C区建物跡1（北より）後方に見えるのが溝4。  
2間×3間の東、西の両側に4個の柱穴が並ぶ建物跡である。時代については不明である。



2. C区建物跡1（西より）



3. C区北側溝跡1（西より）  
溝跡の上部では縄文時代晩期末の遺物・焼土が発見されているので、それより以前のものと考えられる。  
溝跡には水が流れていたと考えられるが、人工か自然かははっきりしなかった。

1～3. C区溝跡1

1. 発見状況  
(東より)



2. 完掘後  
(東より)



3. 完掘後  
(西より)





1. 調査前の状況  
(南西より)

重機の後方の高台および尾根がA調査区で遺構・遺物が集中して発見された。



2. 試掘調査中の状況  
(北より)

人のいるところがB調査区、尾根がA調査区。



3. 調査区全景  
(南側上空より)

遺構・遺物が出土したA調査区3,800㎡を全面発掘調査した。集落は尾根上から尾根の周辺および尾根の南側の小高い平地に営まれていた。

1～3. 全景

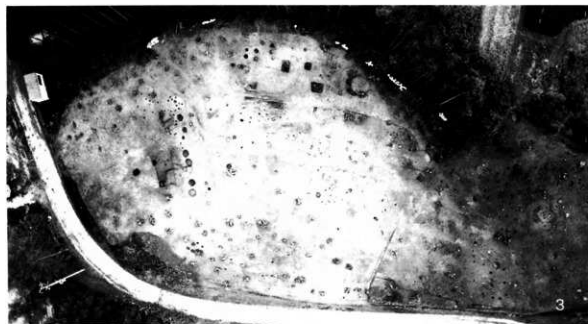
1 (西側上空より)

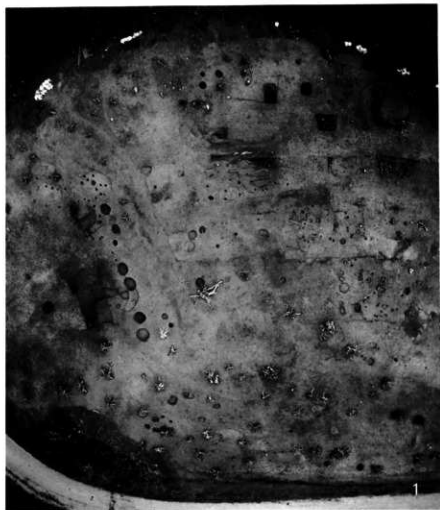
2 (北側上空より)

3 (上空より。左が北)

住居跡は尾根を取り囲むように尾根の斜面を中心に住居跡・土坑が発見され、尾根の頂上を中心に集落を営んでいたと考えられた。

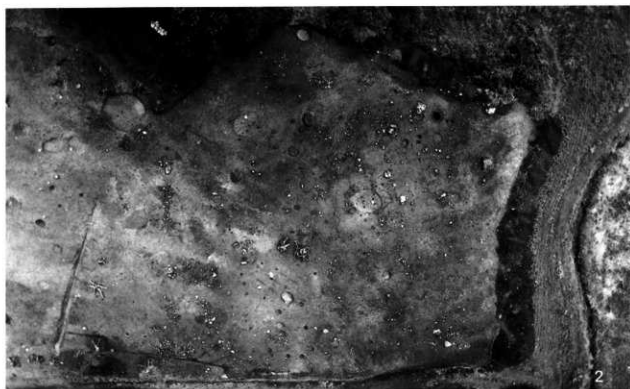
南側の斜面下には流礫群が見られ、縄文時代早期末以前には沢が流れていたと考えられた。また、北側斜面には浅い谷状の地形があり黒色土が厚く堆積しており、縄文時代早期末以前には谷状地形となっていたと考えられた。





1, 2 遺構発見状況  
(上空より。左が北)  
1. 調査区北側尾根周辺

2. 調査区南側、尾根南側平地部分





1～3

調査後の状況

1. 調査区南側、尾根  
南側斜面（南より）



2. 調査区西側尾根西  
斜面（西より）



3. 調査区北側尾根北  
斜面（北より）

北側斜面には、縄文時代早期末まで、谷状の地形があったらしい。中央やや右側の大きくくぼんで見えるのが谷状地形。





1. 調査区北側、尾根部分の南側斜面上部の東側

1・2・7・8・9  
住検出状況（南より）  
斜面から検出された住居跡のほとんどは裏壁側の掘り込みしか残っておらず、半円形での検出であった。



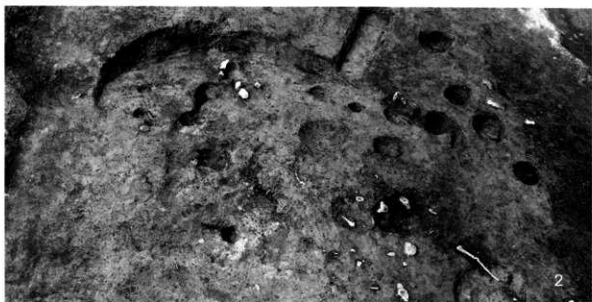
2. 調査区北側、尾根部分の南側斜面下部の東側（南より）

3号住居跡（手前）、  
4号住居跡・集石1  
〜3などが見える。

1. 1・2号住居跡検  
出状況(南より)  
上が1号住居跡。  
下が2号住居跡

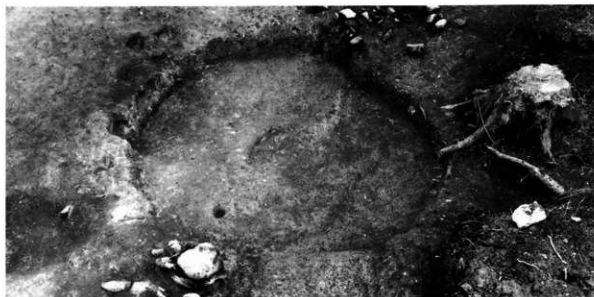


2. 1号住居跡  
(南より)



3. 2号住居跡  
(南より)  
左側の土坑は土坑62。





1. 3号住居跡（南より）  
やや不整形円形で柱穴が1本しか検出できず、中央に炉の浅い掘り込みが見られた。



2. 4号住居跡（南より）  
4号住居跡の右上にあるのは集石3。  
4号住居跡は、やや不整形円形で中央に炉と思われる浅い掘り込みが見られた。柱穴はしっかりしたものがなく、浅く細いものであった。



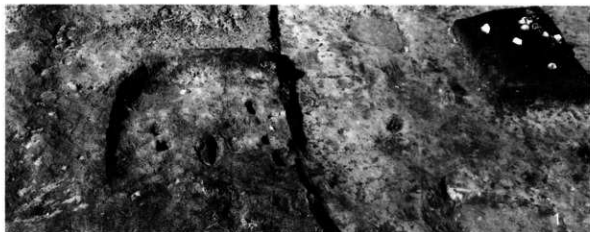
3. 7・8号住居跡（南より）  
下が7号、上が8号住居跡。左上に土坑8、中央上に集石7、右上に集石6、右側に土坑15がある。

1. 9号住居跡

(南より)

右側にあるのは集石

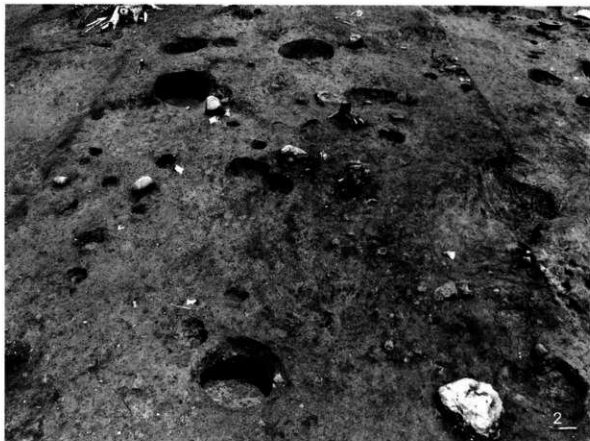
4



2. 尾根部分南斜面中央。

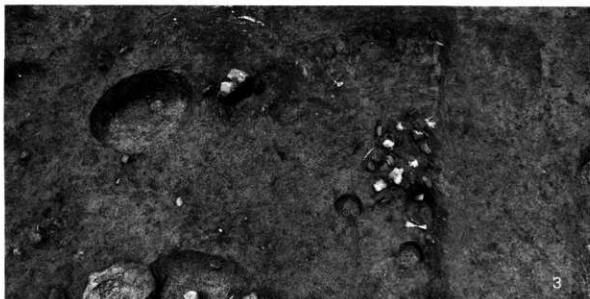
11・17・18号住居跡

(南より)



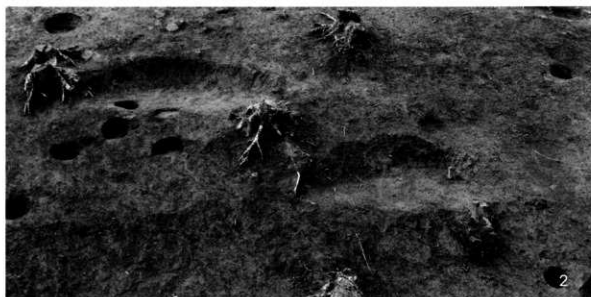
3. 17号住居跡 (南より)

中央には集石 8 がある。下の石の横にあるのは土坑63。住居跡左側にあるのは、土坑69。

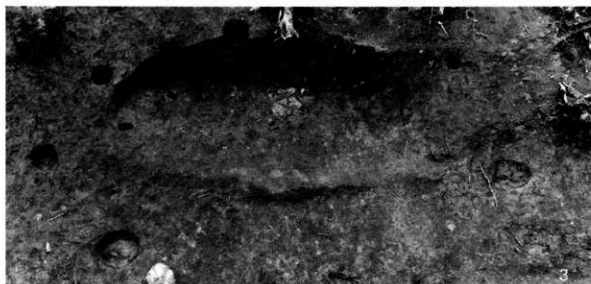




1. 尾根部分西側斜面  
中央5・6・10号住  
居跡（西より）  
急な斜面にあり奥壁  
が残っているのみで  
半円形で検出された。  
床面はあまり堅くなく  
掘りすぎた部分も  
あり、掘り方まで掘っ  
てしまった部分もあっ  
た。



2. 5・6号住居跡  
（西より）  
左上が5号住居跡、  
右下が6号住居跡



3. 10号住居跡  
（西より）



1. 尾根部分北斜面東側 遺物出土状況  
(北西より)  
この下より14~16号  
住居跡が検出された。



2. 尾根部分北斜面中央 遺物出土状況  
(北より)



3. 尾根部分北斜面東側 遺構検出状況  
(北西より)  
14~16号住居跡、土  
坑18、40が検出され  
た。





1. 尾根部分北斜面西側遺物出土状況（北東より）  
12・13号住居跡などが上部で検出され、下部は包含層となっていた。



2. 尾根部分北斜面中央～西側遺構検出状況（北東より）  
12・13号住居跡、土坑16・17・44・45などが上部で検出され、下部は谷状の地形となっていた谷状地形は縄文時代早期後半には埋まっていたものと考えられる。



3. 12・13号住居跡検出状況（北より）  
12号住居跡（下側）は13号住居跡（上側）を掘り込んでいた。これらの住居跡も奥壁が残るだけの半円形のものであった。土坑44・45は上部を12号住居跡に掘り込まれており、住居跡より古いものである。

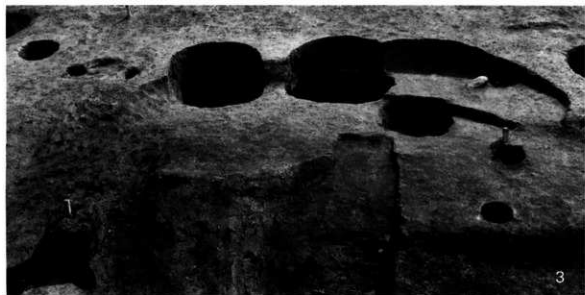
1. 12・13号住居跡検出  
状況（南より）  
上の大きな半円形が  
12号住居跡。下の小  
さな半円形が13号住  
居跡左下に見える土  
坑は、土坑17。



- 2・3・12・13号住居跡  
土坑17・44・45・46掘  
り上がり後  
2.（南より）

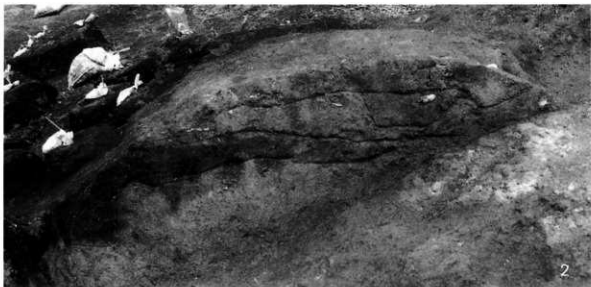


- 3.（北より）

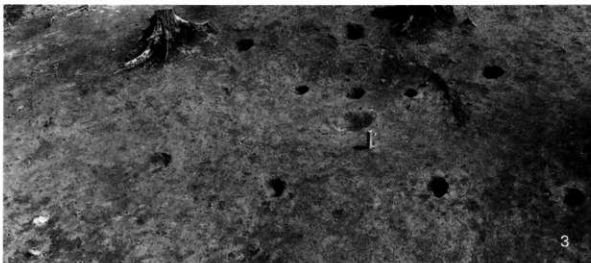




1. 14・15号住居跡、  
土坑18・40掘りあがり後（北より）

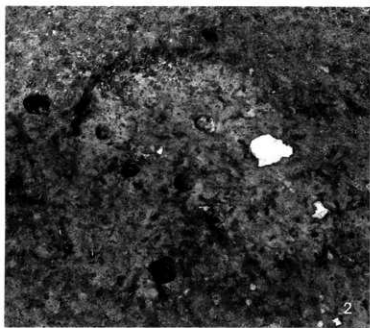


2. 14号住居跡床土層  
断面（西より）  
14号住居跡はローム  
質土を埋め立て床を  
造っていた。

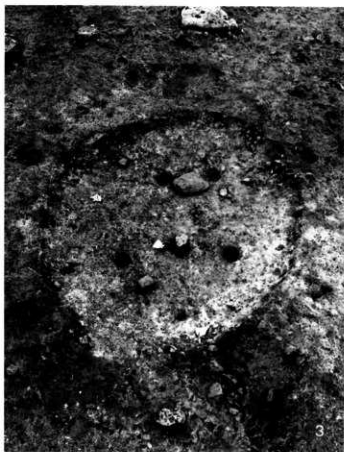


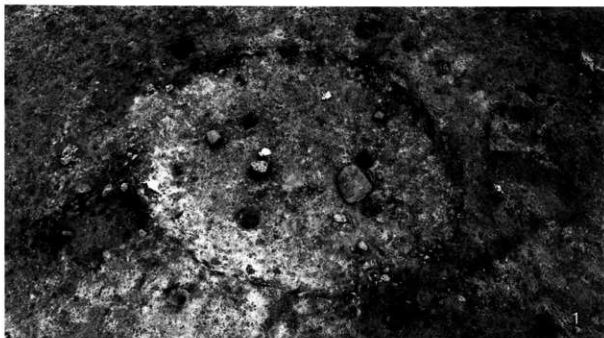
3. 16号住居跡（北西  
より）

1. 調査区南側  
平坦面遺構検出状況  
(南より)  
19号住居跡、焼土群  
が検出された。
2. 19号住居跡 (南よ  
り)

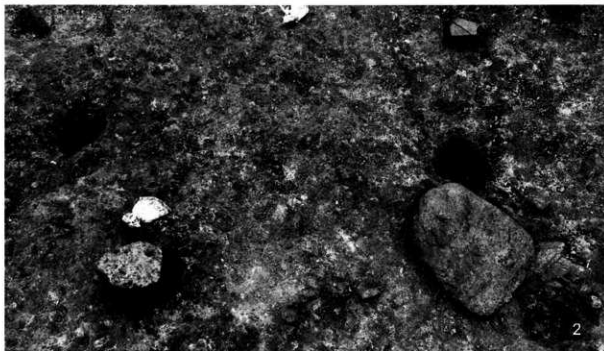


3. 20号住居跡 (北より)  
楕円形の住居跡で3本の主柱穴があり、中央に炉の焼土が  
検出された。





1. 20号住居跡（西より）



2. 20号住居跡炉附近  
（西より）  
左側手前に見える平石は台石と見られる。



3. 21号住居跡（西より）  
西側は道路により削られてしまっていた。



1. 建物跡1 (北より)  
土坑30・37 (縄文時代晩期土坑) に柱穴が掘り込まれていた。  
長六角形に柱穴が並ぶ建物跡である。

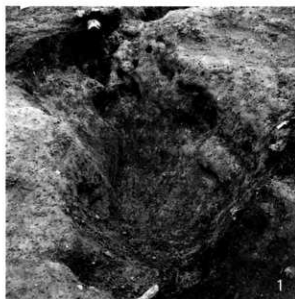


2. 建物跡1 (西より)



3. 尾根頂上部の土坑。  
土坑11～13・47 (南西より)  
頂上部には土坑がわずかに見られただけで、広場のようになっていたものと考えられる。





1



2

縄文時代前期の土坑

1. 土坑 3 (南より)
- 2~4. 土坑 11
3. 土器出土状況 (西より)
4. 完掘後 (西より)



3

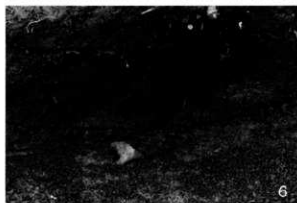


5・6 土坑 19

5. 完掘後 (南より)
6. 底面での石匙出土状況 (東より)



5



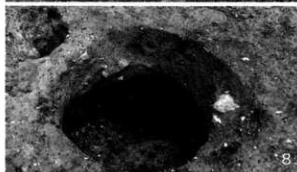
6

7. 土坑 7

8. 土坑 66



7



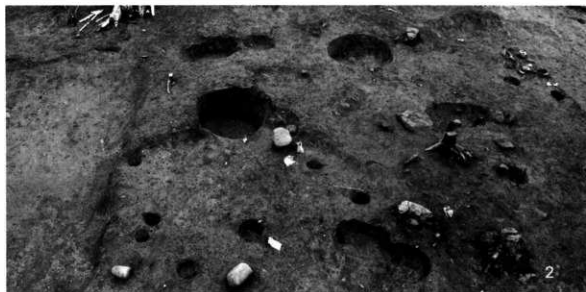
8

縄文時代前期の土坑

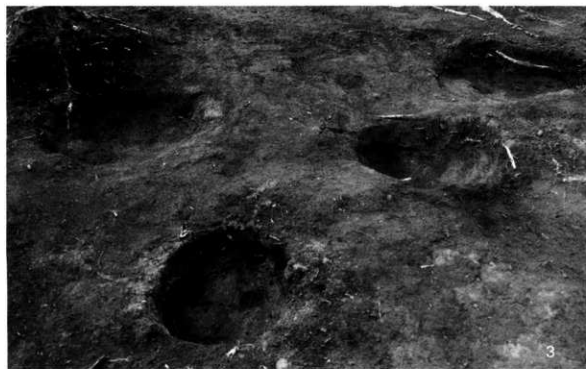
1. 尾根部分頂上南東側土坑（南より）  
土坑83～84



2. 尾根部分南側斜面、  
11・17号住居跡周辺  
土坑63～71



3. 尾根部分西側斜面  
南側土坑（西より）  
土坑75～78

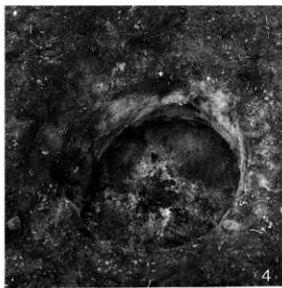
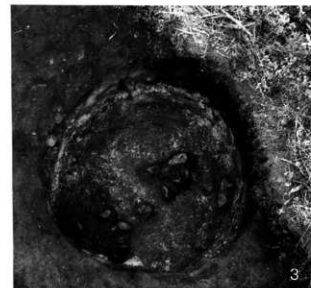




縄文時代前期の土坑  
1. 尾根部分西側斜面北側土坑（北西より）  
土坑19～25



2. 尾根部分北側斜面中央頂上近く12・13号住居跡周辺土坑（北より）  
（一部縄文時代早期後半と考えられるものもある。）  
土坑16・17・44～46



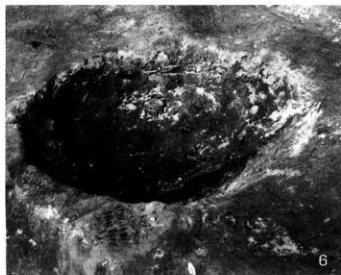
3. 4 南側平坦部分土坑  
3. 土坑30（南より）  
4. 土坑31（南より）

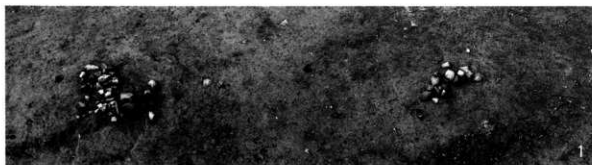
縄文時代前期の集石

- 1 集石 1, 2 (南より)  
上が集石 1。下が集石 2。
2. 集石 1 (南より)
3. 集石 1 断面 (南より)
- 4~6 集石 3
4. (北より)
5. 断面 (東より)
6. 石除去後 (東より)  
集石 3 の石の下には  
多量の炭化物が堆積  
していた。



7. 集石 4 (南より)



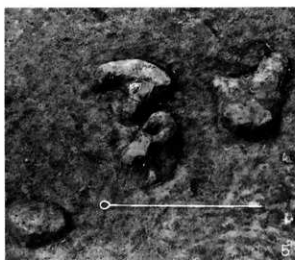


1～4 縄文時代前期の  
集石

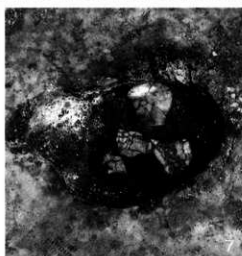
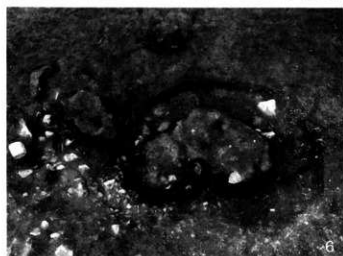
1. 集石（南より）  
右が集石6・7 左が  
集石7。



2. 集石7（南より）  
3. 17号住居跡の中  
にあった集石8（南よ  
り）



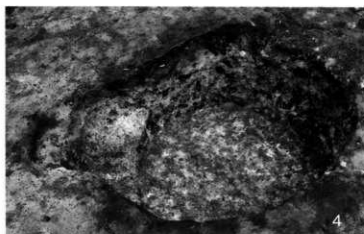
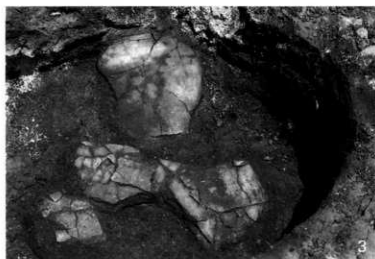
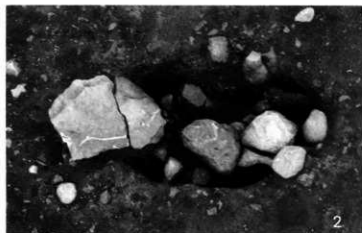
4. 集石5と焼土（北  
より）左上が集石5。  
左側の自然石の上に  
焼土がある。  
5. 南側平坦部分の焼  
土群（南より）  
6. 南側平坦部分の焼  
土群（南より）  
中央の大きな焼土の  
下に土坑43があった。  
この焼土からは縄文  
時代晩期末の土器が  
出土した。



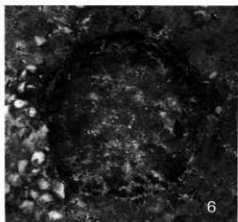
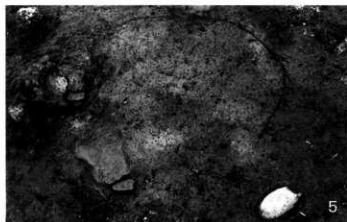
7. 土坑33（南より）  
内部から出土した土  
器は縄文時代晩期で  
あった。

1～6 縄文時代晩期末  
土坑

1. 2土坑32  
1. (南東より)
2. (南西より) 土坑  
32は配石を伴っていた。
3. 4土坑33 (南より)
3. 土器出土状況
4. 掘りあがり後



5. 6土坑34 (西より)
5. 検出状況
6. 掘りあがり後土坑  
34の上部には焼土が  
見られた。



7. 溝1 (西より)  
近世の溝跡と考えら  
れる。





1. 遠景  
(西側よ、青木湖対岸より)
1. A地区、
  2. B地区
  3. C地区



2. 青木湖を含めた全景  
(南側上空より)
- 右側の青木湖端から山際まで加蔵遺跡の範囲。右側手前3がC地区上の1がA地区である。



3. 全景(北側上空より)
- 番号は上と同じ地区割り。



1. A・B地区全景  
(南側上空より)



2. 3日地区調査区全景

2. (北西より)

3. (西より)

東側が高く、西側が低い沢状の地形となっており、高台から降りた部分に縄文時代中期後半の遺物の小集中区が見られた。この集落は東側の調査区外にあるものと考えられる。





1. 西側沢状地形遺物  
出土状況（西より）



2. 遺物出土状況（南  
西より）



3. C地区全景（南側  
上空より）

1. C地区全景（北側  
上空より）



2. 3C地区拡大調査  
区全景  
2. (西より)  
3. (南より)

出土遺物わずかであった。おそらく東側に遺跡がひろがっているものと考えられる。





1. 遠景（西側青木湖  
対岸より）



2. 全景（西側上空よ  
り）  
右からA区、B区、  
C区と調査区を分け  
た。



3. 全景（東上空より）



全景（南側上空より）手前からA区、B区、C区の調査区に分けた。



全景（北側上空より）



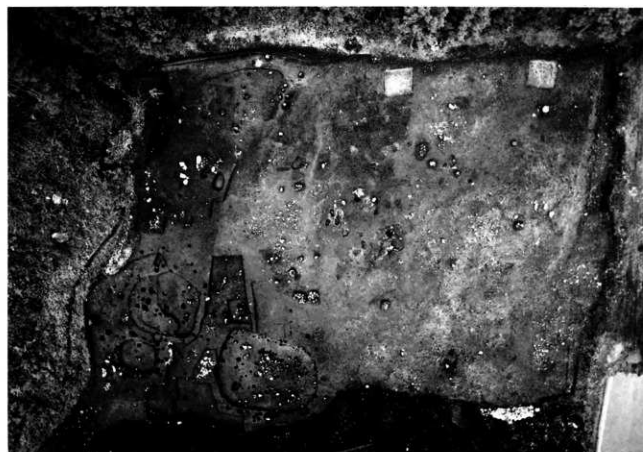
A地区全景（上空より）A地区は遺構は検出できず、礫も流礫と考えられ遺跡の南端部分と考えられた。



A地区全景（西側より）



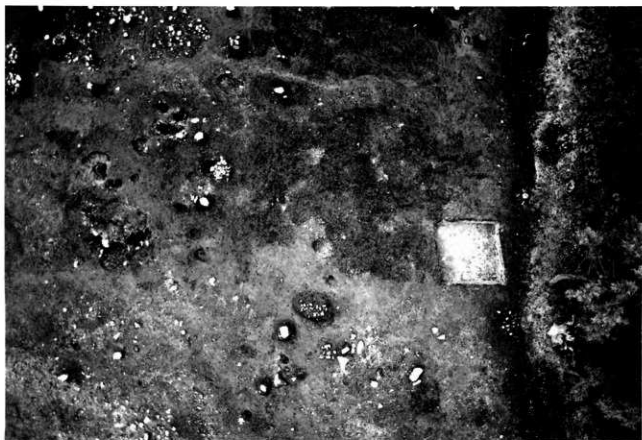
Ｂ地区調査終了後近景（東より）



Ｂ地区全景（上空より）Ｂ地区では縄文時代早期前半末、前期初頭～前半、前期後半の遺構・遺物を中心に発見された。

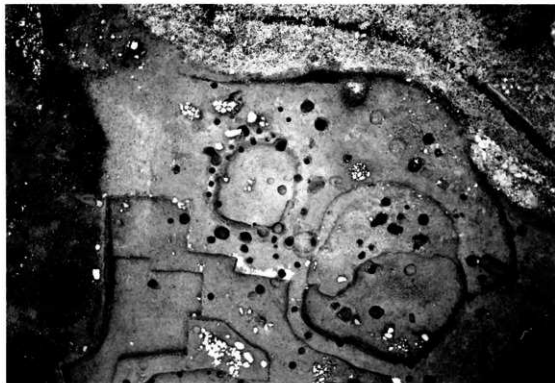


北東側全景（上空より）

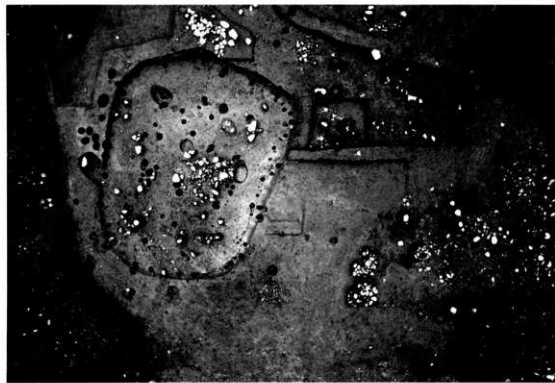


東側中央全景（上空より）集石が見られるが、集石は縄文時代前期後半のものである。



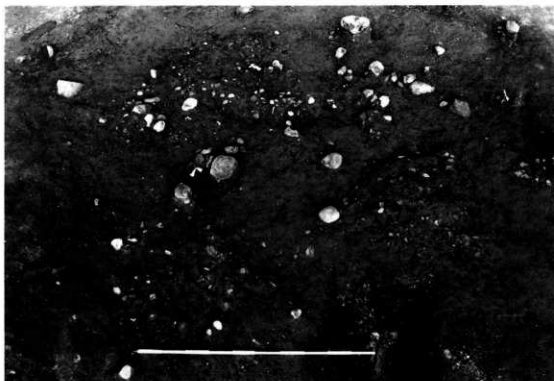


北東全景（上空より）



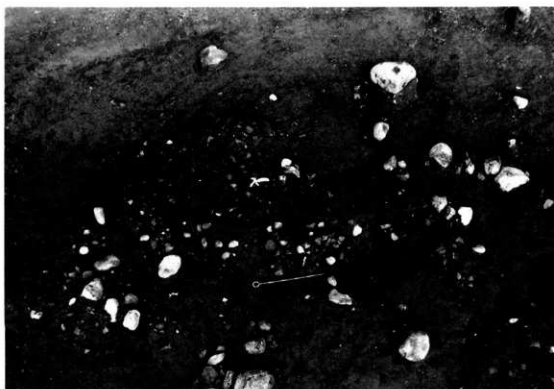
東側中央全景（上空より）集石が見られるが、集石は縄文時代前期後半のものである。

# 藪沢 I 遺跡 B 地区縄文時代前期後半



土器集中区 1～3 (西より)

土器集中区は土器片が多く集中して発見された地点である。



土器集中区 1～3 (西より) この周辺には集石 1・2・10～14があり、所々には大きな礫が置かれていた。



土器集中区 1 の中で発見された一括土器 1。口縁部から底部まであり、この場所に立てられたか、置かれた可能性が強い。



土器集中除去後の集石及び礫の状況（西より）集石 1・10～14。



集石 1・10～14 (南より)



一括土器周辺の集石 (東より) Aの部分で一括土器 1 が検出された。周辺の集石は集石 11～14。



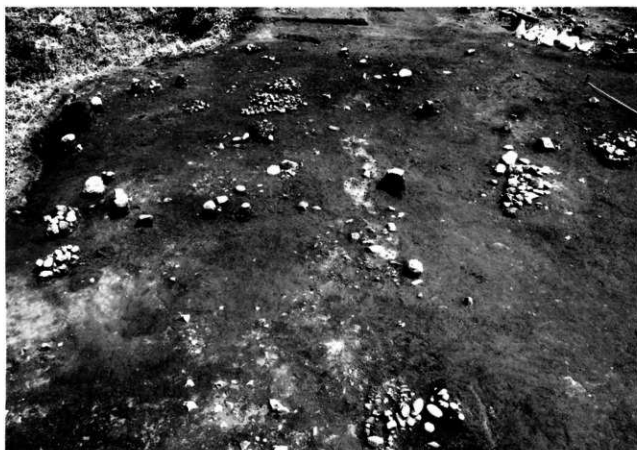
一括土器・土器集中区 1～3 周辺、礫・集石の状況（北東より）集石 14・13。



集石 15～17・25・26（西より）

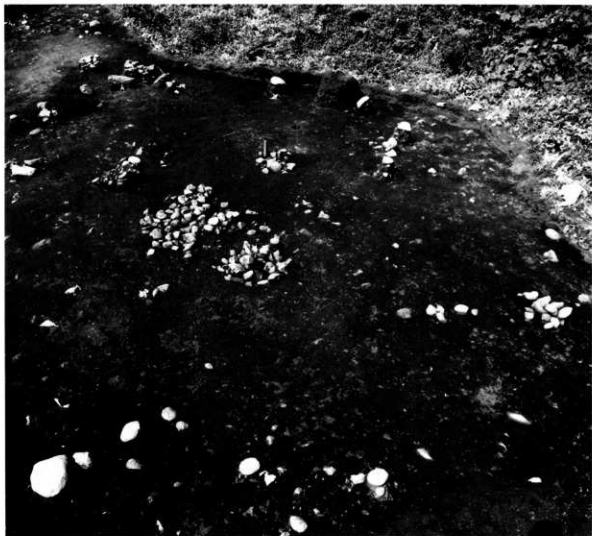


集石 4・7・10・18～21・配石 1・2 (南より)

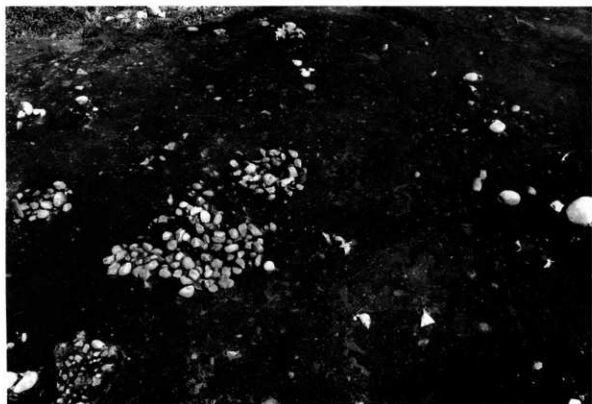


集石 3・8・10・11・18～21配石 1・2 (西より) 配石 1・2 は列石のように石が列に並んでいる。

1. 集石 4 ~ 8 ・ 18 ~  
21 配石 1 ・ 2 ・ 土器  
集中 5 (東より)



2. 集石 4 ~ 8 ・ 21 ・  
土器集中 5 (南西よ  
り)  
土器集中 5 は左下  
にあるものでいくつ  
かの石と土器片が  
集石状にかたまっ  
ていたものである。





集石 18・19、配石 1・2 (西より)



集石 4・5・6 (北東より) 左が集石 6、右が集石 4 と 5 で 2 基の集石が重なっている。



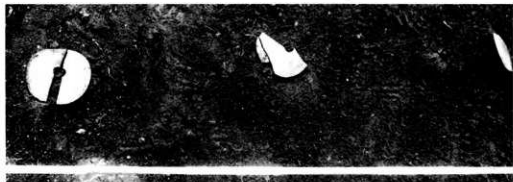
1. 集石 18~20 配石  
(列石) 1・2 (南  
より)



2. 集石 18~20、配石  
(列石) 1・2 大型  
の玦状耳飾出土地点。  
Aから下の写真の玦  
状耳飾が出土した。



- 3・4 大型の玦状耳飾  
出土状況  
2ケの玦状耳飾が並  
んで出土したが、1  
ケは後世の攪乱を受  
けており、2ケに欠  
けて出土した。

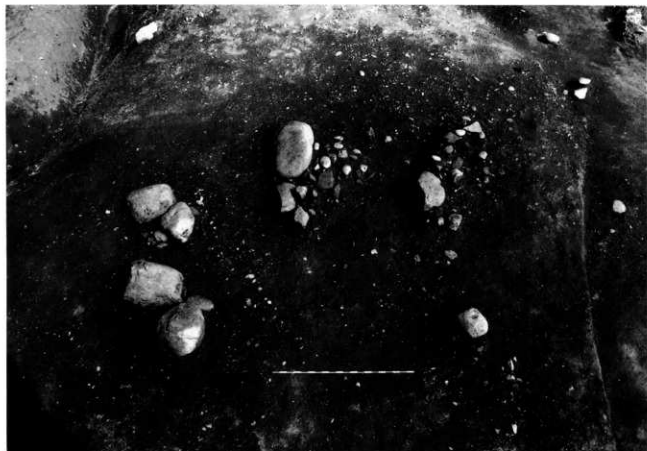




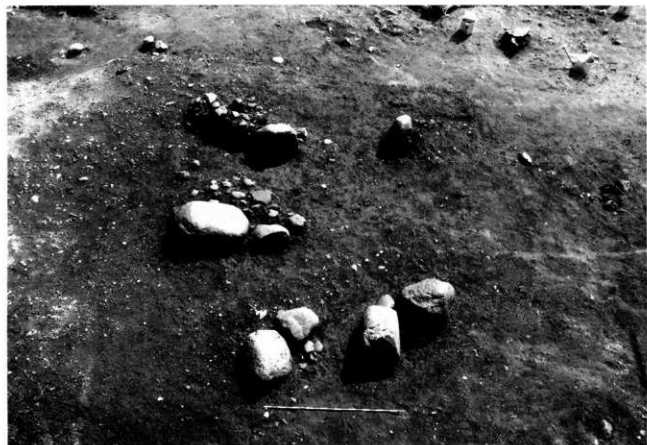
調査区北東集石群。集石22~25・28・29（西より）



調査区北東部分集中群。集石22~25、28・29（南より）



集石24・25、28・29 (西より)



集石24・25、28・29 (北より)



調査区北東部分集石24・25、28・29下層土坑群及び東側柱穴群（西より）

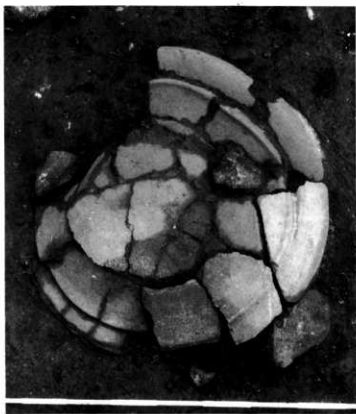


集石24・25、28・29下層土坑群（東より）



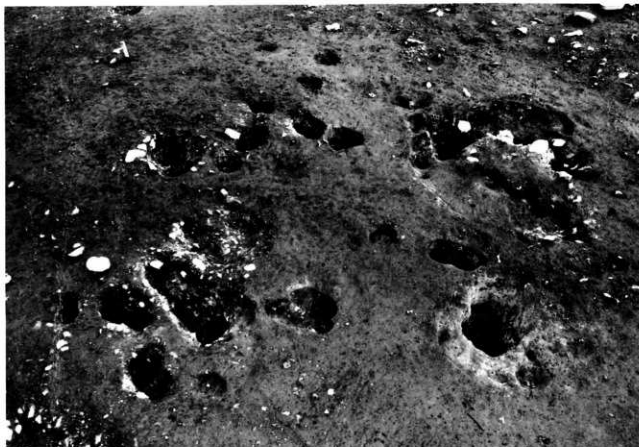
1. 集石25・28・29下層土坑群（北より）

石の入った土坑が集石29の下にあり、その左側の土坑が集石28の下にあたる。

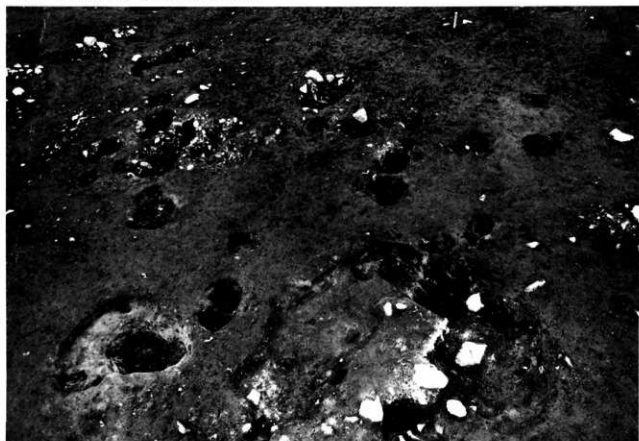


2. 調査区中央部分の集石31・38・39周辺（西より）集石31は石の他に土器片がかためられていた。また北西部分からは有孔浅鉢が伏せた状態で出土している。

3. 一括土器（単独出土土器）2. 有孔浅鉢の下半分が完形で伏せた状態で出土した。おそらく穴は黒色土層でわからなかったが、おそらくは、穴の中に伏せられていたものと予想される。



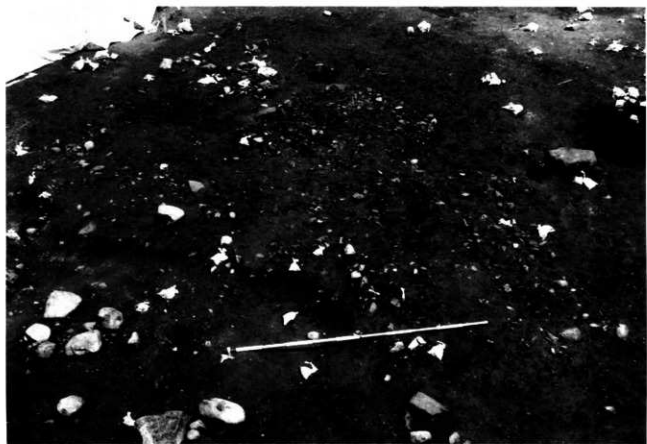
調査区中央柱穴群。(方形柱列) (西より)



調査区中央柱穴群 (方形柱列) (西より)



調査区中央南東部分集石35~37（西より）



調査区南東部分土器集中4（南西より）

土器片が一面に集中して発見され、大きな平石や礫石等が中に見られた。





土器集中 4 (北より)



土器集中 4 北端の状況 (北より) 右側下に大型の砥石が見える。



縄文時代前期後半。土器集中区 4 出土状況（北より）中央左下に大型の砥石が見える。



縄文時代前期初頭～前半。調査区北西部分。4・6・7・9号住居跡、柱穴群 3（西より）。柱穴群 3 については前期初頭～前半と後半のものが混じっている。



4号住居跡（西より）下側に見える浅い穴は集石4～6の掘り方。



4号住居跡（北より）隅丸方形に掘り込まれ中央に炉がある。



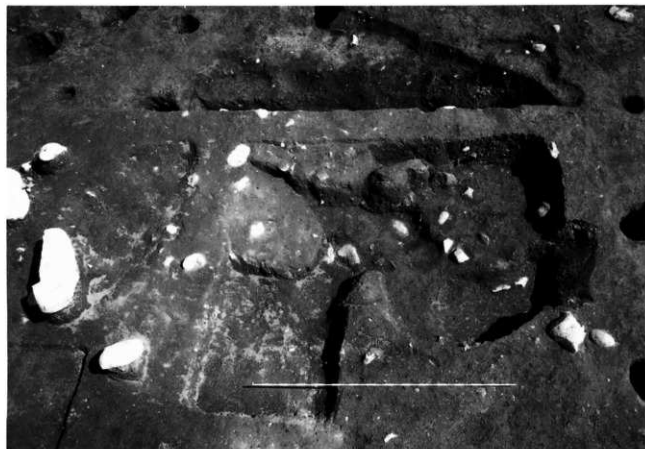
6・9号住居跡（南より。6号住居跡は4号住居跡より古い。9号住居跡は6号住居跡より古い。）



4・6・7・9号住居跡（東より）



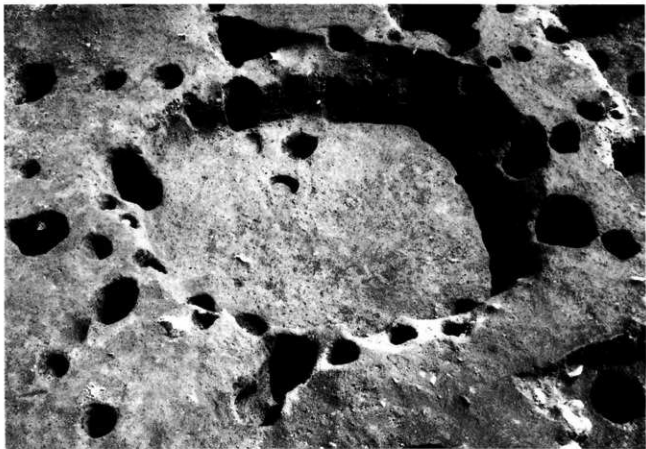
4・6・7・9号住居跡、柱穴群3（南東より）



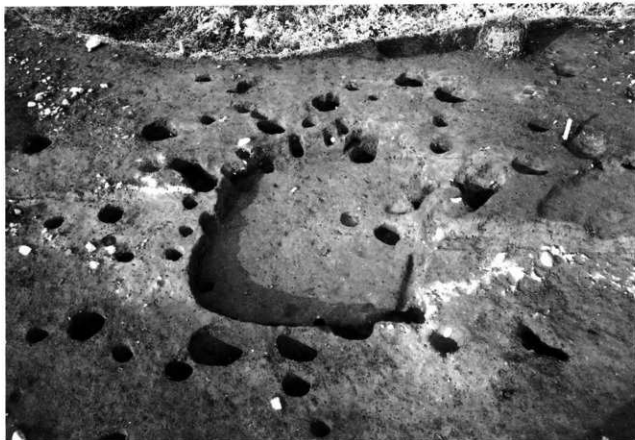
7号住居跡検出状況（西より）埋土には焼土・炭が一面に見られた。



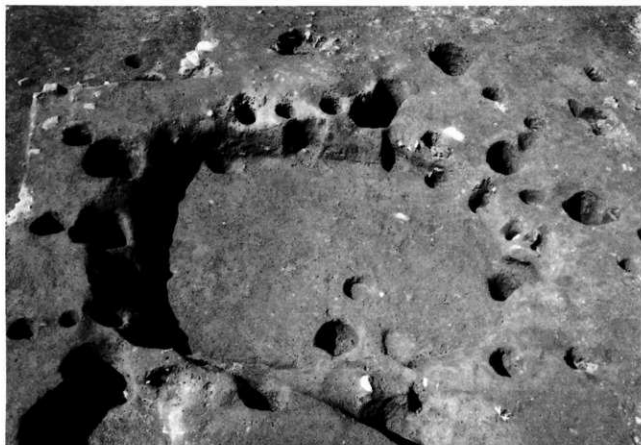
7号住居跡礫検出状況（西より）埋土中には礫が多く、住居跡の中央に見られた。



7号住居跡掘り上がり後（西より）



7号住居跡・柱穴群 3 (南より)



7号住居跡 (東より)

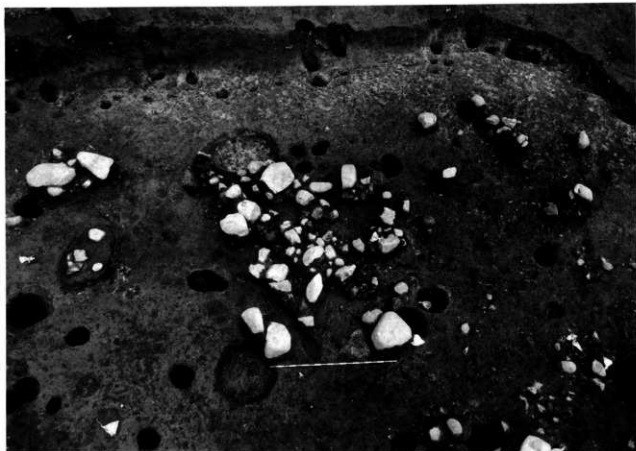


5号住居跡検出状況（西より）この住居跡は2軒の住居跡が重複していたが、検出時に気が付かず掘ってしまった。

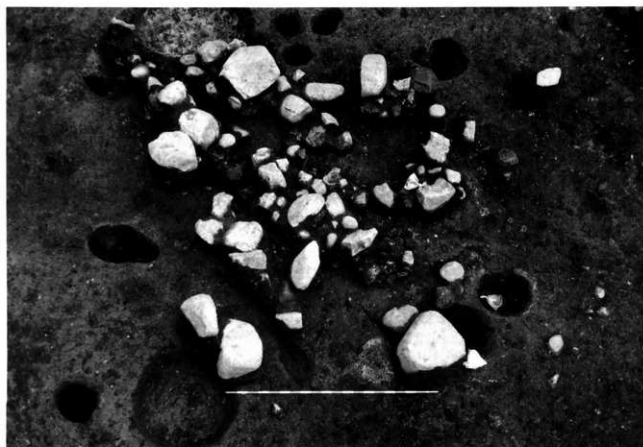


5号住居跡検出状況（西より）





5号住居跡検出状況（西より）



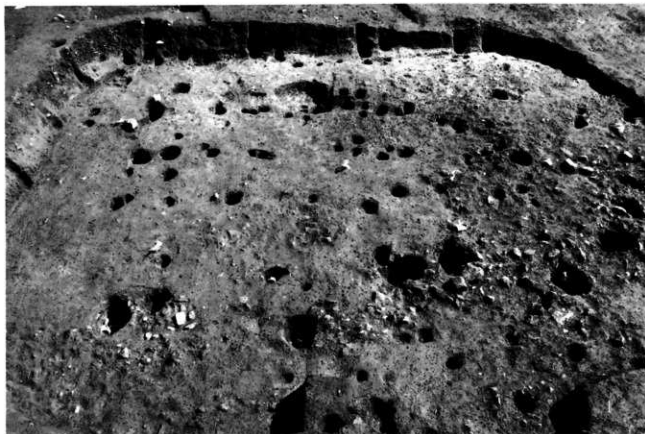
5号住居跡検出状況（西より）



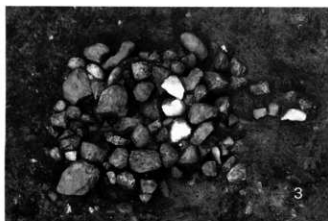
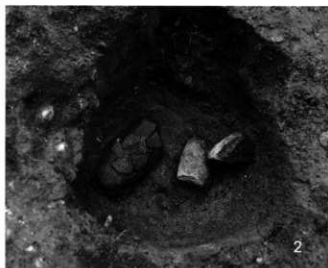
5号住居跡（西より）



5号住居跡（南より）



1・2 縄文時代前期初頭～前半。1. 8号住居跡（西より）8号住居跡は、5号住居跡の床下から発見された。2. 土坑2（北より）丸底の縄文施文の土器が出土した。



3. 縄文時代早期前半末。集石41（集石炉）（南より）  
4. 溝1（西より）時代ははっきりしないが近世のものだと推定される。



1. C-2区調査区全景（上空より）C-2区は、調査時まで墓地となっておりかなりの攪乱があったので南西端の一部のみを調査したにとどめた。



2・3 礫検出状況。2（南より）3（西より）浮んで見られる礫は縄文時代前期後半である。B地区と同様に上層で前期後半、下層で前期初頭～前半が検出された。



礫検出状況（南東より）



礫除去後の状況。土坑は土坑1。(西より)

# 藪沢 I 遺跡 C - 2 地区

写真 67



1. 礫除去後の土坑等  
検出状況（北より）
  - 2～3 土坑 1
  - 2（西より）。3（北  
より）。
- 土坑 1 の東端には大  
型の砥石が立てた状  
態で入れられていた。



4



全景（上空より）



全景（南より）北側は尾根の斜面となっており、斜面の中腹には住居跡が検出され、その下は包含層・集石・焼土が検出された。



掘りあがり後全景（南より）



1～3号住居跡検出状況（南より）これらの住居跡は斜面を削り、掘ってテラスを造り、住居を造っている。





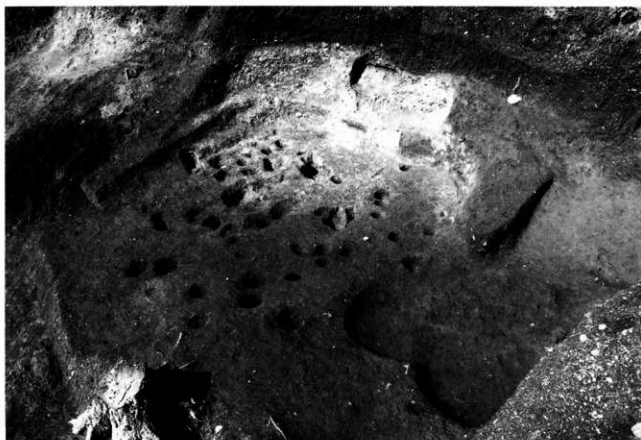
1～3号住居跡（北西より）1～3号住居跡ともに縄文時代前期前半の住居跡と考えた。



1～3号住居跡（南東より）1～3号住居跡は斜面に造られた住居跡で3軒の住居跡が重複していた。



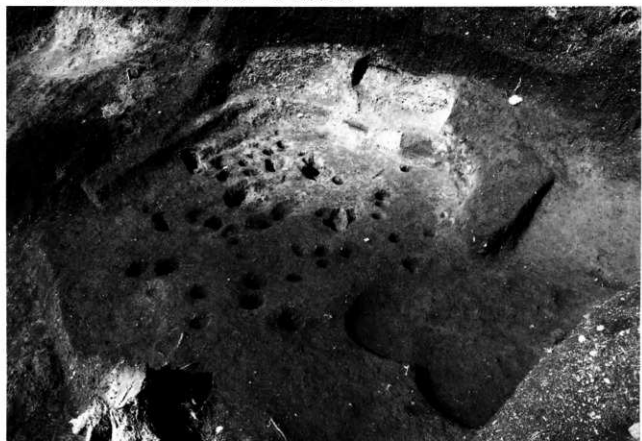
1～3号住居跡（南より）住居跡北壁には、住居跡より新しい時期の土坑4が掘り込んでいる。



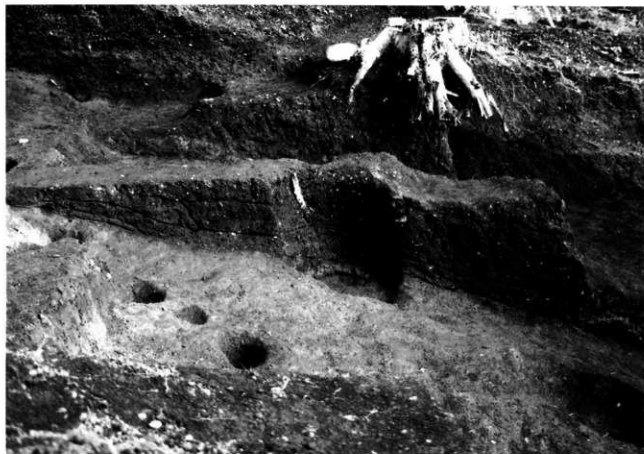
1～3号住居跡 柱穴検出状況（南東より）この住居跡の右下には縄文時代後期初頭の土坑5が検出されている。



1～3号住居跡 柱穴検出状況、土坑4・5（南東より）



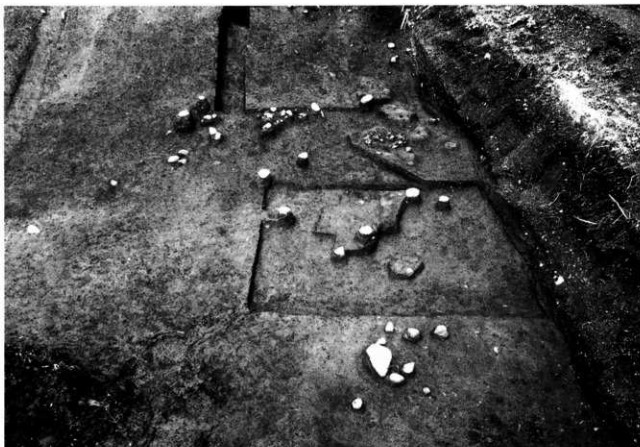
1～3号住居跡柱穴検出状況、土坑4（南より）



2・3号住居跡南側土坑（西より）2・3号住居跡を造っているテラスの南側から検出され、中からクリの炭化物が出土している。



住居跡下側の遺物・検出土状況（南より）斜面の下部は縄文時代前期前半を主体とした包含層が見られ、礫も点在していた。



住居跡下側礫・焼土検出状況（南より）



住居跡下側礫・焼土検出状況（東より）斜面下部は、作業場だったらしく、礫、集石、焼土群が検出されている。



斜面下部礫・葉石・焼土検出状況（東より）



斜面下部集石・焼土の状況（西より）



遠景（西側、青木湖対岸より）



全景（西側上空より）家の裏がF地区。その右がE地区、道路の右側がD地区。



全景（北側上空より）手前からF地区・E地区・D地区。



全景（北側の尾根より）手前からF地区。人のいる所がE地区。その向こうがD地区。





D地区全景（北より）縄文時代前期前半の遺物が検出された。



E地区全景（東より）手前は開田時に削られていた。礫は自然の流礫である。



全景（北より）



遺物出土状況（西より）縄文時代前期・後期前半・晩期末の遺物が出土した。



1～3 全景（南より）

1・2 遺物検出状況

3. 調査後

F地区からは縄文時代前期後半の住居跡の一部が検出され、縄文時代晩期末の遺物小集中区焼土群を中心に縄文時代早期前半、前期初頭～前半の遺物が出土した。



# 藪沢Ⅲ遺跡

写真 81

1. 全景（南側上空より）  
手前からA地区、B地区、尾根の向こう側をC地区として調査した。

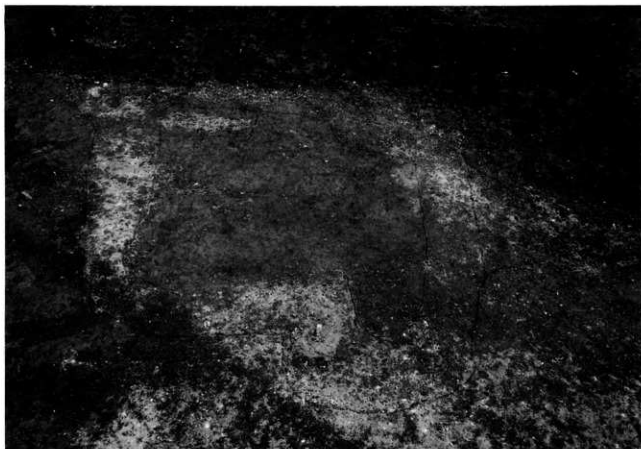


2. A地区全景（上空より。右側が北）  
A地区では3号住居跡、溝1、中世の河川跡、縄文時代後期後半の遺物小集申区が検出された。



3. B地区全景（上空より。右側が北）  
B地区では、北側の尾根の斜面で住居跡4軒、斜面下部では縄文時代早期前半と後半の礫群・焼土、南側の平坦部で後期の集石やそれ以前の河川跡が検出された。





3号住居跡検出状況（西より）3号住居の周囲には溝が掘られ、その中に砂利が入れられていた。内耳鍋片が出土している。



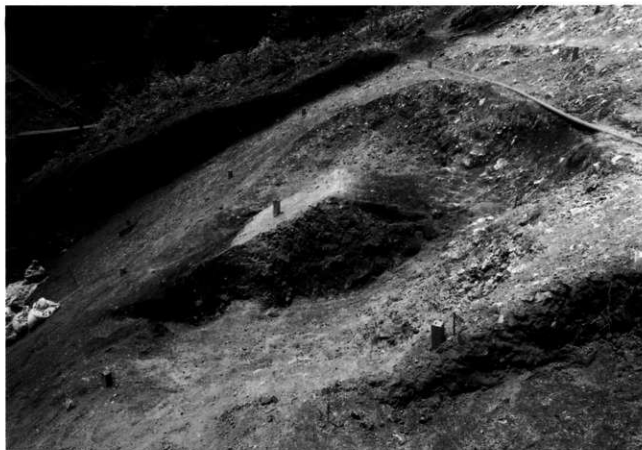
3号住居跡掘り上がり（西より）周囲には砂利の入れられた溝が見られ、内側はやや堅い床面になっていた。中世の住居跡である。



斜面に造られた1・2・4・5号住居跡（南より）4・4・5号住居は中央に見られる掘り込みで重なって検出された。



1・2・4・5号住居跡（東より）手前が1・4・5号住居跡後方が2号住居跡。



1・4・5号住居跡構築状況（東より）住居跡は、斜面を大きく掘り平坦面を造って、家を造っていた。



2号住居跡（北より）1・4・5号住居跡と同じく斜面を削って造っていた。



集石（西より）縄文時代後期の土器片が1片出土していることから縄文時代後期頃の集石と考えられる。



集石（西より）石をただ単に集めたという感じの集石で、用途ははっきりしない。左側で焼土、右側で炭の集中区が見られた。





縄文時代早期後半礫群（南より）北側の尾根の南斜面で検出された。



縄文時代早期後半礫群（西より）礫群中からし焼土や土坑も検出されている生活面である。

1・2 縄文時代早期前半  
半礫群

北側の尾根の南斜面  
の裾の早期後半礫群  
の下層で検出された。



1. (上空より上が北)  
2. (南より)

礫群中からは焼土が  
4ヶ所から検出された。

この礫群の下層は青  
灰粘土及び砂利層で、  
以前は青木湖がこの  
部分までおよんでいた  
可能性が考えられた。

3. 早期前半遺物出土  
状況 (西より)





縄文時代早期前半磯群中の土器出土状況（東より）



縄文時代早期前半磯群中の焼土（南より）



A地区北側（上空より。上が北）Aが中世の河川跡。Bが堅穴。Cが3号住居跡。Dが縄文時代後期後半遺物小集申区検出地点。



中世河川跡・堅穴（南より）堅穴は河川跡に附属した施設であろう。



中世河川跡 埋没木出土状況及び堅穴（南東より）埋没木には木の皮が付いたものや火のこげ跡のあるものも見られ、切り出されたものと考えられた。



中世河川埋没木状況（西より）埋没木は山で切り出されこの場所に見られたものであろうと考えられた。



中世河川跡南東横下層に検出された縄文時代後期後半の遺物小集中。



溝1（南より）A地区南東部に検出された。中から中世の陶器が検出され、中世のものと考えられる。

大町市埋蔵文化財調査報告書第37集

## 青木湖

国道148号青木湖バイパス工事用地内遺跡調査報告  
後山遺跡・大行原遺跡・加蔵遺跡・  
藪沢Ⅰ遺跡・藪沢Ⅱ遺跡・藪沢Ⅲ遺跡

平成10年3月2日印刷

平成10年3月10日発行

発行 長野県大町市大字大町3887  
大町市教育委員会  
印刷 長野県大町市大字大町3871-1  
有限会社 北屋印刷